

## 環境展 2019

『NEW環境展』が3/12～15東京ビックサイトにて開催されました。

新たな政策に基づく、CO2削減やエネルギー問題等、各種課題に対応する最新の環境技術・サービスが一堂に会しました。

また、廃棄物回収やリサイクルのビジネスでも、省人化や高効率化が求められているようです。無人化施工ロボット、ドローン等の、AIやIoT、衛星ナビ活用の技術も注目されていました。



### ● 福助工業株式会社

福助工業株式会社は、レジ袋を製造しています。袋の一部にサトウキビ由来のポリエチレンを使用することで、石油の使用量を抑制でき、CO2排出量削減に貢献しています。

また、レジ袋をレジ袋にリサイクルするシステムもあり、3月のエコニュースの記事にもありました、プラスチック・スマートの取り組みに通ずると感じました。



## 新年度を迎えて—環境委員会より

企業の社会的責任が語られるようになった現在、環境問題の解決のため多くの企業がその対策に取り組んでいます。自然環境の劣化はこれまでの私たちの経済活動が負荷要因となって進展してきました。非持続的に資源を利用した生産と消費は、いずれその資源の枯渇という事態に直面してしまいます。環境に対する企業責任を果たすということは、企業自身の持続可能性のためでもあり、私たちの将来のためでもあります。

印刷業界も様々な取り組みを進めています。印刷に使われる紙が管理された森林からつくられたものであれば、資源を無計画に伐採する要因にはなりません。また生産システムを改善し、ムダやロスの排除を通して廃棄物の発生そのものを削減すること、再生資源の利用には分別回収はもとより「リサイクル対応型印刷物」としてインキや資材も開発されています。大気や水の汚染対策として、VOC(揮発性有機化合物)を含まない資機材・薬品への切り替えや、廃液の削減のため現像処理液を使用しない技術も進められています。「環境に配慮した印刷物」は、地球環境を阻害するものではありません。

当社も環境ISO14001の取得を通じて、目標を設定し、継続的な改善を行うことでこれらの課題に取り組んできました。しかし大きな地球環境の問題を日々の実務の中で実感し、結び付けていくのは難しいところもあります。

環境委員会ではこうした溝を埋めるべく、JSエコニュースを通じて様々な環境の話題や身近な取り組みについてこれからも情報を発信していきます。

本社サイト責任者 下鳥治

本社 環境委員会メンバー 2018

委員長：下鳥治

委員：小井土昌弘 河野純一 庄司亜佐子

曲師里奈 森智史

